

—静岡県焼津市—

漁師の仕事! 船と漁業を知る授業・漁船員の仕事を疑似体験③

6 月 1 日、全国漁業就業者確保育成センターが主催し、全日本海員組合が後援する「漁師の仕事!船と漁業を知る授業」が、遠洋漁業の盛んな静岡県焼津市で開催された。この漁業就業ガイダンスは、実際に漁船を見てから就職ガイダンスに臨むという企画で、静岡県立焼津水産高等学校をはじめ、北海道、青森県、山形県、栃木県、富山県、島根県、沖縄県の各水産・海洋系の高等学校から約 60 人、県内外の中学校から約 50 人、生徒の保護者、関係者など約 60 人が参加した。

出港式・全員で船を見送る

遠洋マグロはえ縄漁船「第八十八福久丸」ならびに実習船「やいづ」の船内見学が終了した後、八興漁業株式会社の海外まき網漁船「第三十五八興丸」の出港セレモニーが行われた。同船には、今年 3 月に静岡県立焼津水産高等学校を卒業し、初めて航海に出る乗組員も乗船しており、駆け付けた家族や関係者から激励を受けた。出港時刻になると、色とりどりの紙テープをなびかせ、家族や関係者、漁業就業ガイダンスの参加者全員で手を振り本船の出港を見送った。

午後の部・漁業ガイダンス

午後の部は、焼津市総合福祉会館（ウェルシップやいづ）に移動し、漁業ガイダンスが行われた。本組合の高橋健二水産局長が「本日参加している学生の皆さんは日本の漁業を担う金の卵であり、皆さんの才能、知識、バイタリティーをもって日本の漁業、漁船を継続していただきたい。本日はさまざまな漁業種の会社が参加しており、第一線で働くプロの方々と意見交換を行い、楽しみながら学んでほしい」とあいさつした。その後、参加した高校生は、各企業のブースを回り、将来のために真剣な眼差しで説明を受けた。

一方、中学生グループは保護者と一緒に「漁師の仕事!はじめてセミナー・水産高校と焼津を知る授業」に参加し、焼津市や参加企業から漁業の説明、各水産高等学校から各学校の説明や進路相談などを受け、漁業や漁師について理解を深めた。

閉会式では、参加した高校生から「普段見ることのできない船内の見学や、現場で働く船員から説明を受けることができて良い経験となった」「さまざまな会社から説明を受けることができてよかった」「海外まき網漁船に興味が出た」などの感想が述べられた。また、中学生からは「練習船見学や水産高校の先生からの説明など、進路を決める上で貴重な経験になった」などの感想が述べられ、漁業ガイダンスを終了した。

「海員だより」